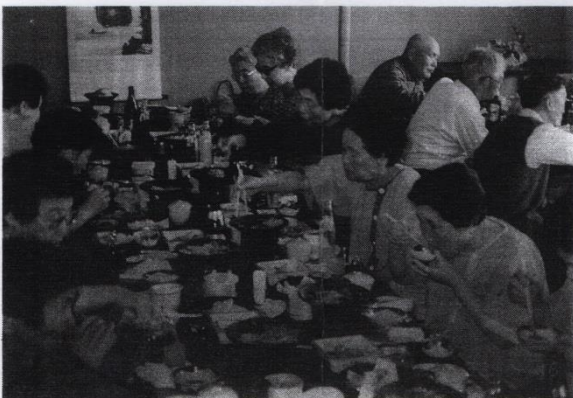


“ふれ合い”はあいさつから

交通当番で両備ストアの前の交差点に立つことがある。登校中の子供たちに「おはよう」と声をかけるが、あいさつのできる子供は数少ない。ほとんどの子供は、無表情に顔をあげてこちらを一瞥するだけである。田中野田の界隈も往来の多い昨今、だれにでも声をかけることは煩わしさもあると思うが、友達だけでなく、せめて顔見知りの人や田中野田の人には、老若男女を問わずあいさつを交わしたいものである。面白ゼミナールで名高い鈴木健二さんは、「あいさつはこちらから心を開いていくことであり、人がしてくれなくても、こちらからしていくものである。」と言っておられる。あいさつも家庭のしつけが基本となることは言うまでもない。朝起きて、親子顔を合わせたとき、親から「おはよう」の声がかけられる親でありたい。勿論親同士のあいさつは子供たちの手本となる。こうした夫婦・親子のふれ合いはあいさつに始まり、明るい家庭をつくるものになる。家庭でのあいさつは、友達同士の気持ちよいあいさつになり、近所のおじさん、おばさんへの明るいあいさつへと広がる。みんなと仲よくといくら言い聞かせても、かけ声ばかりでは仲よく手を結ぶことはできない。「おはよう」の一言は相手の心を自然に開かせる不思議な力をもっている。あいさつは、みんなが手をつなぐ第一歩である。明るく、楽しい町内づくりはここからはじまる。金も要らない時間もかけないすばらしい金言である。もっとあいさつを大切にしたいものである。 文責 和気 加太志

〈各種団体だより〉



なごやかな白寿会総会

新年度を迎えて

白寿会会長 和気 勇

4月16日白寿会移動総会を稲荷山の健康センターで行いました。9時30分迎えの車で出発致し、会員61名中34名出席し盛大に行いました。平素あまり交流の少ない皆様が一室に会して、食事しながら語り合い春の一日を楽しく過ごし、4時30分全員無事帰りました。人生80年時代、高齢者社会を迎えた我が国の老人人口は、65才以上が約12%を占めている現状であります。このような状況の中で市や老連と致しましても、一人暮らし寝たきり老人が次第に増えている現状から老人クラブ等による日常の訪問活動を通じて、それぞれの地域における要援護老人を訪問して見守っております。このように、老人の孤独感の解消を図ることを目的に、目くばり気くばりネットワークチームを編成しております。(1人に対して3～5名)又、最近高齢者の交通事故が大変増加しております。年をとると若い時のような機敏な行動がとれなくなります。交通事故は各人の一寸した注意で確実におさえられると思います。特に夜間の外出には夜行タスキ等着用して、自転車バイク等各人交通ルールを守って運転しましょう。

又、各人が心身の健康に努めて、これまで培ってきた知識、経験と技能を地域社会のために役立てたいと思うものであります。終わりに、町内の皆様にいろいろとお世話になって居りますが、今後も何分共よろしくお祈りします。

子ども会より

田中野田子ども会育成会

会長 光 延 秀 雄

平成4年度新役員をお知らせします。

子ども会育成会

- | | |
|---------------|-----------|
| 会 長 | 光 延 秀 雄 |
| 副 会 長 | 大 森 仁 一 |
| | 香 山 一 寛 |
| | 大 小 信 憲 |
| | 和 林 夫 夫 |
| 地 区 理 事 | 下 芳 夫 代 |
| ” 副 理 事 | 山 島 玉 子 |
| 交 通 部 理 事 | 大 中 野 洋 子 |
| ” 副 理 事 | 東 野 端 江 子 |
| 会 計 | 中 尾 悦 子 |
| 交 通 安 全 母 の 会 | 大 森 美 枝 子 |

子ども会

- | | |
|-------|-----------|
| 会 長 | 中 尾 知 世 子 |
| 副 会 長 | 大 森 一 弘 |
| | 東 野 徹 男 |
| | 相 沢 里 佳 |

◆バザー開催のご案内◆

バザーを下記の通り行いますので、町内会の皆様、育成会の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

開催日時 平成4年6月14日(日)

午前10時～12時まで

会 場 田中野田公会堂

本年度もよろしく

田中野田婦人会支部長 植 田 千佳子

風香るさわやかな季節がやってまいりました。

町内の皆様方会員の皆様方には、日ごろから大変お世話になっております。

田中野田婦人会は婦人行事の他に愛育委員としての役目を微力ながら頑張っております。今年も何かとご無理をお願いいたしますことも多いかと思いますが、ご協力の程よろしくお祈り致します。

平成4年 田中野田婦人会 新役員紹介

- | | |
|-------------|---------|
| 支 部 長 | 植 田 千佳子 |
| 評 議 員 | 大 森 喜美子 |
| ” | 和 気 良 江 |
| ” | 和 気 和 子 |
| 今 婦 人 会 監 査 | 久 山 桜紗栄 |

編 集 後 記

会長の交替があり、しかも引き継ぎも早いとは言えなかったもので、何かにつけて町内の皆様にご迷惑をおかけしました。ふれあい新聞も例年は4月1日に発行しておりましたが、大変遅れ申し訳なく思っております。

町内で新聞を発行しているのは、近郊では田中野田町内会だけだと聞いております。新聞を通してお互いに情報を交換し、意見を出し合うことは会員相互の親睦と福祉の増進を図り、町内の向上発展に寄与していく上で重要なはたらきを持っております。ふれあい新聞は、昭和62年度より発行され、本号で22号を数えるわけです。この新聞を今後よりよく育て、皆様に愛される新聞、魅力ある新聞にしていきたいと念願いたしております。

今までの新聞は、中尾前会長におんぶされ過ぎた観もありましたので、みんなで作る、みんなの新聞に衣替えしていきたいと思っております。そのために現在町内会理事より2名、子供会育成会、老人会、婦人会、体協より1名ずつ編集委員を選出して頂いております。23号からはこれらの方々の手で発行されることになると思います。いづれにしても町内の皆様のご協力がなければ、よい新聞をつくることはできません。今後積極的にご協力を頂き、よりよい新聞に育て上げていきたいと思っております。